

1

解答解説のページへ

数列  $\{a_n\}$ ,  $\{b_n\}$  を, 初項  $a_1 = -1$ ,  $b_1 = 2$  と漸化式

$$a_{n+1} = a_n - 4b_n, \quad b_{n+1} = a_n + 5b_n$$

で定める。このとき, 次の問いに答えよ。

- (1)  $c_n = a_{n+1} - 3a_n$  とおくと, 数列  $\{c_n\}$  が漸化式  $c_{n+1} = 3c_n$  を満たすことを示せ。
- (2)  $d_n = \frac{a_n}{3^n}$  とおくと, 数列  $\{d_n\}$  が満たす漸化式を導き, 数列  $\{d_n\}$  の一般項を求めよ。
- (3) 数列  $\{a_n\}$ ,  $\{b_n\}$  の一般項を求めよ。

**2**

解答解説のページへ

$n$  を 2 以上の自然数とし、関数  $f_n(x)$  を、 $f_n(x) = \frac{\log x}{x^n}$  ( $x > 1$ ) と定める。

$y = f_n(x)$  で表される曲線を  $C$  とするとき、次の問いに答えよ。

- (1)  $x > 1$  のとき、 $\log x < x - 1$  を示せ。また、 $\lim_{x \rightarrow \infty} f_n(x) = 0$  を示せ。
- (2) 関数  $f_n(x)$  の増減を調べ、極値を求めよ。
- (3) 曲線  $C$  の変曲点を求めよ。また、その変曲点における接線と  $y$  軸との交点を  $(0, y_n)$  とおくと、 $\lim_{n \rightarrow \infty} y_n$  を求めよ。

**3**

解答解説のページへ

底面の半径が 1 で高さが 1 である直円柱を考える。直円柱の底面の直径を含みこの底面と  $30^\circ$  の傾きをなす平面により、直円柱を 2 つの立体に分けるときの、小さい方の立体の体積を求めよ。

4

解答解説のページへ

$n$  を 2 以上の自然数とし、点  $O$  を中心とする半径 1 の円周上にすべての頂点をもつ正  $2n$  角形を考える。そのうちの 1 つの頂点を  $A$  とし、 $A$  とそれ以外の頂点を結ぶ線分が点  $O$  を中心とする半径  $\frac{1}{2}$  の円と共有点をもつような頂点の個数を  $a_n$  とする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1)  $a_2, a_3, a_4$  を求めよ。
- (2)  $a_{2021}$  を求めよ。
- (3)  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n}{n} = \frac{2}{3}$  を示せ。

1

問題のページへ

(1) 条件より,  $a_1 = -1$ ,  $b_1 = 2$ ,  $a_{n+1} = a_n - 4b_n \cdots \cdots \textcircled{1}$ ,  $b_{n+1} = a_n + 5b_n \cdots \cdots \textcircled{2}$ ①より  $b_n = \frac{1}{4}(a_n - a_{n+1})$  となり, ②に代入すると,

$$\frac{1}{4}(a_{n+1} - a_{n+2}) = a_n + \frac{5}{4}(a_n - a_{n+1}), \quad a_{n+2} = 6a_{n+1} - 9a_n \cdots \cdots \textcircled{3}$$

ここで,  $c_n = a_{n+1} - 3a_n$  とおくと, ③から,

$$c_{n+1} = a_{n+2} - 3a_{n+1} = (6a_{n+1} - 9a_n) - 3a_{n+1} = 3(a_{n+1} - 3a_n) = 3c_n \cdots \cdots \textcircled{4}$$

(2) ①より  $a_2 = a_1 - 4b_1 = -1 - 4 \cdot 2 = -9$  となり,  $c_1 = a_2 - 3a_1 = -9 - 3 \cdot (-1) = -6$ ④より  $c_n = c_1 \cdot 3^{n-1} = -6 \cdot 3^{n-1} = -2 \cdot 3^n$  となり,  $a_{n+1} - 3a_n = -2 \cdot 3^n \cdots \cdots \textcircled{5}$ さらに,  $d_n = \frac{a_n}{3^n}$  とおくと, ⑤から,

$$3^{n+1}d_{n+1} - 3 \cdot 3^n d_n = -2 \cdot 3^n, \quad d_{n+1} - d_n = -\frac{2}{3}$$

すると,  $d_1 = \frac{a_1}{3^1} = -\frac{1}{3}$  から,  $d_n = d_1 - \frac{2}{3}(n-1) = -\frac{1}{3} - \frac{2}{3}(n-1) = -\frac{2}{3}n + \frac{1}{3}$ (3)  $a_n = 3^n d_n = 3^n \left(-\frac{2}{3}n + \frac{1}{3}\right) = -(2n-1) \cdot 3^{n-1}$  となり, ①から,

$$\begin{aligned} b_n &= \frac{1}{4}\{-(2n-1) \cdot 3^{n-1} + (2n+1) \cdot 3^n\} = \frac{1}{4}(-2n+1+6n+3) \cdot 3^{n-1} \\ &= \frac{1}{4}(4n+4) \cdot 3^{n-1} = (n+1) \cdot 3^{n-1} \end{aligned}$$

## [解説]

基本的な連立漸化式を解く問題です。誘導なしでもよいぐらいです。

2

問題のページへ

(1)  $x > 1$  のとき,  $g(x) = x - 1 - \log x$  とおくと,  $g'(x) = 1 - \frac{1}{x} = \frac{x-1}{x} > 0$  となり,

$$g(x) > g(1) = 0, \log x < x - 1$$

すると,  $n$  が 2 以上の自然数のとき,  $f_n(x) = \frac{\log x}{x^n}$  ( $x > 1$ ) に対して,

$$0 < \frac{\log x}{x^n} < \frac{x-1}{x^n} = \frac{1}{x^{n-1}} - \frac{1}{x^n}$$

よって,  $\lim_{x \rightarrow \infty} f_n(x) = 0$  となる。

$$(2) f_n'(x) = \frac{\frac{1}{x} \cdot x^n - (\log x) \cdot nx^{n-1}}{x^{2n}} = \frac{1 - n \log x}{x^{n+1}}$$

$x$	1	...	$\sqrt[n]{e}$	...
$f_n'(x)$		+	0	-
$f_n(x)$	0	↗	$\frac{1}{ne}$	↘

$f_n'(x) = 0$  の解は,  $x = e^{\frac{1}{n}} = \sqrt[n]{e}$  であることより,  $f_n(x)$  の増減は右表のようになる。

すると,  $f_n(x)$  は  $x = \sqrt[n]{e}$  のとき極大値  $\frac{1}{ne}$  をとる。

$$(3) f_n''(x) = \frac{-\frac{n}{x} \cdot x^{n+1} - (1 - n \log x) \cdot (n+1)x^n}{x^{2n+2}} = \frac{-n - (n+1)(1 - n \log x)}{x^{n+2}}$$

$$= \frac{n(n+1) \log x - 2n - 1}{x^{n+2}}$$

$x$	1	...	$\alpha$	...
$f_n''(x)$		-	0	+
$f_n(x)$	0	∩		∪

$f_n''(x) = 0$  の解は  $x = e^{\frac{2n+1}{n(n+1)}}$  となり,  $\alpha = e^{\frac{2n+1}{n(n+1)}}$

とおくと  $\alpha > e^0 = 1$  であるので, 曲線  $C: y = f_n(x)$

の凹凸は右表のようになる。すると,  $C$  の変曲点  $P$  の座標は  $P(\alpha, f_n(\alpha))$  となり,

$$P\left(e^{\frac{2n+1}{n(n+1)}}, \frac{2n+1}{n(n+1)e^{\frac{2n+1}{n+1}}}\right)$$

また, 変曲点  $P$  における接線の方程式は,  $y - f_n(\alpha) = f_n'(\alpha)(x - \alpha)$  となり, 点  $(0, y_n)$  を通ることより,  $y_n - f_n(\alpha) = -\alpha f_n'(\alpha)$  から,

$$y_n = f_n(\alpha) - \alpha f_n'(\alpha) = \frac{\log \alpha}{\alpha^n} - \alpha \cdot \frac{1 - n \log \alpha}{\alpha^{n+1}}$$

$$= \frac{2n+1}{n(n+1)e^{\frac{2n+1}{n+1}}} - \frac{1-n \cdot \frac{2n+1}{n(n+1)}}{e^{\frac{2n+1}{n+1}}} = \frac{2n+1}{n(n+1)e^{\frac{2n+1}{n+1}}} + \frac{n}{(n+1)e^{\frac{2n+1}{n+1}}}$$

すると,  $n \rightarrow \infty$  のとき,  $\frac{2n+1}{n(n+1)} \rightarrow 0$ ,  $\frac{n}{n+1} \rightarrow 1$ ,  $e^{\frac{2n+1}{n+1}} \rightarrow e^2$  より,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} y_n = 0 + \frac{1}{e^2} = \frac{1}{e^2}$$

[解説]

微分法の基本的な問題です。ただ、(3)は数値計算がやや難ですが。

3

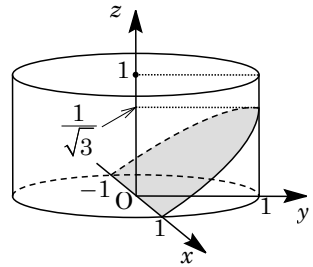
問題のページへ

底面が  $xy$  平面上にあり、中心が原点で半径 1、そして高さ 1 の直円柱は、

$$x^2 + y^2 \leq 1, 0 \leq z \leq 1 \dots\dots\dots ①$$

また、 $x$  軸を含み、 $xy$  平面と  $30^\circ$  の傾きをなす平面の下側は、 $\tan 30^\circ = \frac{1}{\sqrt{3}}$  から、

$$z \leq \frac{1}{\sqrt{3}}y \dots\dots\dots ②$$



①かつ②で表される立体を、平面  $y = t$  ( $0 \leq t \leq 1$ ) で切断したときの切り口は、

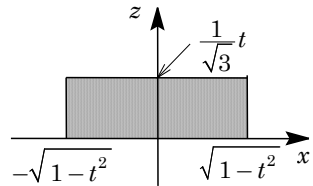
$$x^2 + t^2 \leq 1, 0 \leq z \leq 1, z \leq \frac{1}{\sqrt{3}}t$$

すると、 $\frac{1}{\sqrt{3}}t \leq 1$  から、

$$-\sqrt{1-t^2} \leq x \leq \sqrt{1-t^2}, 0 \leq z \leq \frac{1}{\sqrt{3}}t$$

図示すると右図の網点部となり、この面積  $S(t)$  は、

$$S(t) = 2\sqrt{1-t^2} \cdot \frac{1}{\sqrt{3}}t = \frac{2}{\sqrt{3}}t\sqrt{1-t^2}$$



よって、求める立体の体積  $V$  は、 $V = \int_0^1 S(t)dt = \frac{2}{\sqrt{3}} \int_0^1 t\sqrt{1-t^2} dt$  となり、 $u = 1-t^2$  とおくと、 $du = -2t dt$  から

$$V = \frac{2}{\sqrt{3}} \int_1^0 \sqrt{u} \left(-\frac{1}{2}\right) du = \frac{1}{\sqrt{3}} \int_0^1 \sqrt{u} du = \frac{1}{\sqrt{3}} \left[ \frac{2}{3} u^{\frac{3}{2}} \right]_0^1 = \frac{2}{3\sqrt{3}} = \frac{2}{9}\sqrt{3}$$

**[解説]**

立体の体積についての有名問題です。解答例では  $y$  軸に垂直な断面をとりましたが、 $x$  軸に垂直な断面で考える方法もあります。

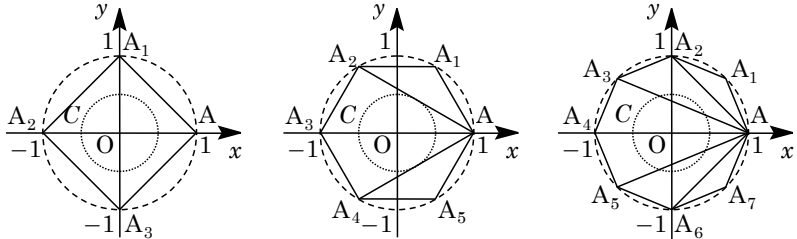


4

問題のページへ

- (1) 点  $O$  を中心とする半径  $1$  の円周に内接する正  $2n$  角形  $A_1A_2A_3 \cdots A_{2n}$  に対して、 $A = A_{2n}$  とおく。そして、線分  $AA_k$  ( $k=1, 2, \dots, 2n-1$ ) が、点  $O$  を中心とする半径  $\frac{1}{2}$  の円  $C$  と共有点をもつような頂点  $A_k$  の個数を  $a_n$  とおく。

$n=2, 3, 4$  の場合を具体的に記すと右図のようになり、 $a_2=1$ ,  $a_3=3$ ,  $a_4=3$  である。



- (2) 正  $2n$  角形  $A_1A_2A_3 \cdots A_{2n}$  に対して、線分  $AA_n$  は外接円の直径となるので、円  $C$  と共有点をもつ。

ここで、線分  $AA_k$  ( $k=1, 2, \dots, n-1$ ) の中点  $M_k$  に対し、

$$\angle AOM_k = \frac{1}{2} \angle AOA_k = \frac{1}{2} \cdot \frac{2\pi}{2n} k = \frac{\pi}{2n} k$$

すると、 $OM_k = OA \cos \frac{\pi}{2n} k = \cos \frac{\pi}{2n} k$  となり、線分  $AA_k$

( $k=1, 2, \dots, n-1$ ) が円  $C$  と共有点をもつ条件は、 $0 < OM_k \leq \frac{1}{2}$  から、

$$0 < \cos \frac{\pi}{2n} k \leq \frac{1}{2}, \quad \frac{\pi}{3} \leq \frac{\pi}{2n} k < \frac{\pi}{2}, \quad \frac{2}{3}n \leq k < n \cdots \cdots (*)$$

また、線分  $AA_k$  ( $k=n+1, n+2, \dots, 2n-1$ ) が円  $C$  と共有点をもつ  $A_k$  の個数は、 $x$  軸についての対称性から、 $k=1, 2, \dots, n-1$  の場合と同数である。

さて、 $n=2021$  のとき、(\*)は  $\frac{4042}{3} \leq k < 2021$  となり、 $\frac{4042}{3} = 1347 + \frac{1}{3}$  から、

$$k = 1348, 1349, \dots, 2020$$

よって、 $a_{2021} = 1 + (2020 - 1348 + 1) \times 2 = 1347$  である。

- (3) (i)  $n$  が  $3$  の倍数のとき (\*)より、 $k = \frac{2}{3}n, \frac{2}{3}n+1, \dots, n-1$  となり、

$$a_n = 1 + \left(n - 1 - \frac{2}{3}n + 1\right) \times 2 = \frac{2}{3}n + 1$$

- (ii)  $n$  が  $3$  の倍数でないとき (\*)より、 $k = \left[\frac{2}{3}n\right] + 1, \left[\frac{2}{3}n\right] + 2, \dots, n-1$  となり、

$$a_n = 1 + \left\{n - 1 - \left(\left[\frac{2}{3}n\right] + 1\right) + 1\right\} \times 2 = 2n - 2\left[\frac{2}{3}n\right] - 1$$

ここで、 $\frac{2}{3}n - 1 < \left[\frac{2}{3}n\right] \leq \frac{2}{3}n$  なので、 $2n - 2 \cdot \frac{2}{3}n - 1 \leq a_n < 2n - 2\left(\frac{2}{3}n - 1\right) - 1$

$$\frac{2}{3}n - 1 \leq a_n < \frac{2}{3}n + 1$$

- (i)(ii)より、 $\frac{2}{3}n - 1 \leq a_n \leq \frac{2}{3}n + 1$  である。

したがって、 $\frac{2}{3} - \frac{1}{n} \leq \frac{a_n}{n} \leq \frac{2}{3} + \frac{1}{n}$  となり、はさみうちの原理から、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n}{n} = \frac{2}{3}$$

### [解説]

図形と極限の問題です。(1)を解くことにより、(2)と(3)の方針を立てています。